

青春

鹿追町立
瓜幕中学校
3年A組

持続可能な発展を目指し 教育・産業・観光が連携

私たちの鹿追町は『ジオパーク』への認定に向けての取り組みを行っている。今年度の調査では『保留』となり、認定には一歩届かなかった。私たちは、新地球学の授業で『ジオパーク』について学習した。(連続)



今回の審査で鹿追は
保留

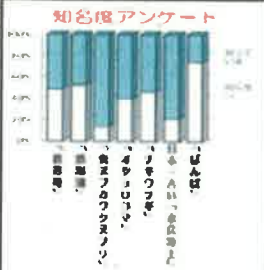
私たちは住む鹿追町では、日本ジオパークとしての認定を目指している。鹿追には一万年前の火山活動によって誕生した、火山や遺りがある。そこにはナキウツギをはじめとした貴重な動植物たちが見られ、町内の小中高では郷土の自然や文化と環境問題を学ぶ「新地球学」という教科がある。また冬の自然観測では「

ジオパーク認定を目指して

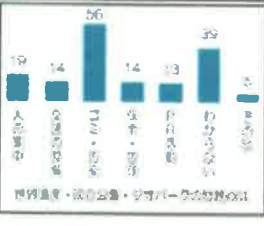
タン」という雪と氷の村が開村し、そこには沢山の観光客が訪れる。このように、特徴的な自然があり、学術や観光の場として利用するなど、特色ある取組がある。

100人に調査「鹿追町の知名度」

私たちは鹿追町についてのくらし知られているか調べるため、仙台と新千歳空港で鹿追PRと並行してアンケート調査を行った。アンケートでは鹿追や新潟を知っている人は、全体の半分以上の人だった。また、名前を聞いたことがあるという程度の認識で詳しく知っている人は少なかつた。またジオパークについて「メディア発表を気にしている人が多かった。調査の結果からこれらのPR活動と環境保全に対する活動が今後の課



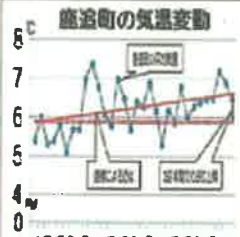
また、今回のアンケートから「鹿追町」の認知度を広めていく必要性を感じた。その点では今回のPR活動はわずかでも知名度アップにつながったのではないだろうか。また今回「はんば」の知名度がとて高いことがわかった。瓜幕の「はんば」は合併の高齢化などを理由に今年を最後と終わる可能性があるというが、海外の人にも知名度が高いはんばの存在を、後継する必要があると思われる。(光田)



私たちが住む鹿追町では、日本ジオパークとしての認定を目指している。鹿追には一万年前の火山活動によって誕生した、火山や遺りがある。そこにはナキウツギをはじめとした貴重な動植物たちが見られ、町内の小中高では郷土の自然や文化と環境問題を学ぶ「新地球学」という教科がある。また冬の自然観測では「

鹿追の危機

私たちは、「実社会で学」という授業で鹿追町の過去三二年間の平均気温データをグラフに表すとともにデータから100年後の予測を行った。グラフを見ると、大きな気温上昇があるように見えるが、「直線に近似的に予測した」という点で、100年後の予測は、100年間で0.8℃上昇、100年間で25℃上昇。この自然環境を守るためには、現状を維持するためには、現状を維持するとともに、未来を予測し、対策のために何ができるかを考え、動き続ける必要がある。(大久保)



「データからわかったこと」
32年間で0.8℃上昇
100年間で25℃上昇

実際に聞いて知った 津波の恐ろしさ

私たちが住む鹿追町では、今年度の調査では『保留』となり、認定には一歩届かなかった。私たちは、新地球学の授業で『ジオパーク』について学習した。(連続)

私たちが住む鹿追町では、今年度の調査では『保留』となり、認定には一歩届かなかった。私たちは、新地球学の授業で『ジオパーク』について学習した。(連続)

私たちが住む鹿追町では、今年度の調査では『保留』となり、認定には一歩届かなかった。私たちは、新地球学の授業で『ジオパーク』について学習した。(連続)

鹿追&日本&世界を知る

新地球学とは

「自然・環境・防災」地域の文化「国際環境エネルギー」の四分野があり、それぞれ知識を身につけ、地球規模の問題解決について考える力を育む教科だ。これまで、日本や世界のエネルギー事情、鹿追の自然エネルギー、鹿追の動物、外来生物、川の水質調査、然別火山群と風穴などについて学習してきた。(津内)



エネルギー事情

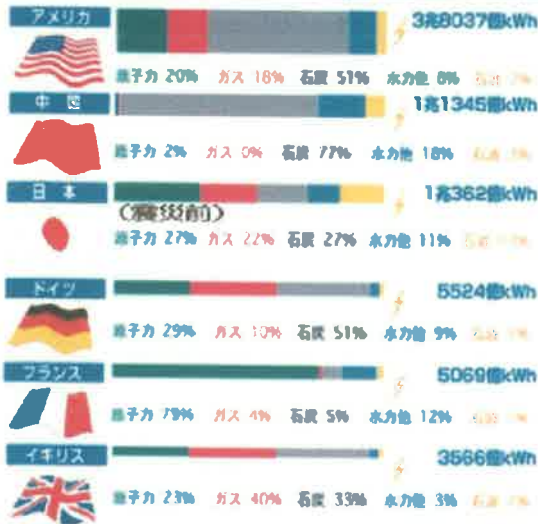
日本の発電

震災後の日本の発電の割合は火力78%、原子力4%、新エネルギー4%、水力・地熱4%となっている。震災後の原発事故により原子力による発電が極度に減少し、代わりに火力発電の割合がかなり高くなっている。原子力発電の安全性や対応などの状況に対して好意的な意見を持つものは少ない。現在は火力発電がベースとなり日本

の発電を支えているが、石油産出国がいっまでも石油を売ってこれる限りは、現在低価格にあり、新エネルギー、地熱発電などの見直しや研究を行うのが必要なのではないのだろうか。もっと私たちが関心を持つ、小さなことから一歩ずつ新たなことへ踏み出すことが重要だと考える。(大久原)

世界の発電

グラフのように世界各国



火力発電

良い点は低コストの建設費が安く、悪い点は、問題点はCO2の発生が輸入に頼っている点だ。

原子力発電

東日本大震災で福島原発の事故があり、危険性が高い。良い点は発電効率が高い。悪い点は、建設費が多いこと、発電の始段が安いと言われていて、問題点は廃炉に管理しなればいけないことだ。

このことをめ、今後の日本のエネルギーについて安全性や持続可能性などを考えることが大切だ。(津内)

身近な水力発電

私たちは水力・火力・原子力発電のうちもっとも身近にある水力発電を見るために十勝ダムを見学した。十勝ダムの役割は、大きく分けて「洪水を防ぐ」「電気を世界に供給する」を見

作ること、ダムに流れ込む水を貯めながら少しずつ川に流し、急激な川の増水を抑えることである。また、十勝川の豊富な水量を利用した発電も十勝ダムの大切な役割の一つだ。実際に発電の場面を見ることはできなかったが十勝一大きいダムのスケールを感じることができた。(津内)

鹿追のバイオガス発電

鹿追町の環境保全センターではバイオガスをプラントで発電を行っている。改善の興味を生み、使い易ささせる施設だ。このバイオガスプラントでは、一日に廃牛一三〇〇頭分の糞を処理し、一般家庭四五〇戸分の発電をしている。その電気はプラント内で利用する他、余った電力は発電している。

鹿追町の環境保全センターに見学に行った。その際、原料が新鮮な状態で、利用されるまでの過程を見てきた。新鮮なものは発電・液肥に使うことが出来るが、他にもバイオガスを精製して車両燃料に変換したりもしている。また、発電時に出る熱を利用して発電機加温や温室ハウスを暖房に使用し、熱を送り込んで、冬期間の作物栽培試験を

新たな特産物

鹿追町では、町環境保全センターのバイオガスプラントで発生する余熱を利用する施設を建設する予定で、チョウサメの養殖とマンゴウサメの試験研究、サツマイモの保管・加工の事業に取り組みしている。

発電を行うプラントは余熱の利用が課題の一つで、この事業は短期間のサツマイモの苗作りなどに活用していた。余熱バイオガスを熱源として活用し、冬場でも三〇度の室温を維持しているそう。チョウサメの養殖は町商工会を中心としたグループが研究を進めていて、町の施設を利用して試験栽培に取り組み。マンゴウサメは若手農業者グループ「町青年会」が検討していて、栽培施設で研究を進める。熱利用と共々、お湯のための温水設備も整備する予定だ。サツマイモは現在、町内農家が露地栽培をしており、出荷に向けて保管庫を町が建設する。千しいもへの加工も検討している。地元の新しい食材に私たちも期待している。(津内)

新地球学の学び エネルギー&文化から

鹿追の野生動物・家畜・外来生物

私たちは、鹿追町の文化についてインターネットや、歴史を用いて調べ、パワーポイントにまとめ、発表し、その発表の場を鹿追町と、それらの動物は昔から関わってきたことが分かった。



【鹿】 アイヌ語で「ウテフウシ」という言葉がある。これは鹿を追うという意味で鹿追の名にもなったものだ。鹿追町では昔アイヌの人々が土地の谷間に棚を掛けて鹿を飼っていた。今でもエソシカはステーキや伝統的な、食用に使われている。



【馬】 昔は鹿追町でも農業・運送に使われていた。その後トラクターやトラクタが普及され、馬や運送には使用されなくなり、数は減った。今では競馬や乗馬などに使われている。馬車にはライディングパークという馬場の施設がある。

【豚】 鹿追町では三分所で豚を飼って、出荷されている。鹿追町商工会では、鹿追屋の豚肉を使用したソーセージやベーコンを、ポックルホークという名前

で販売している。

【牛】 鹿追町では、一九二四年に赤牛を導入したことから始まった。今では「鹿追牛」という名でブランド化され、出荷されている。

【外来生物】 アメリカ合衆国北西部産のウチダザリカニ。環境省指定特定外来生物に指定されている。寿命が六年とかなり長生きするこのウチダザリカニが、鹿追町の自然

に生息している。然

地元の食材 DE オリジナルメニューを提案

私たちが住む鹿追町には美味しい飲食店が沢山ある。地元の店では地元の食材を使っている。例えば、鹿追町は鹿追が鹿肉なので持ってきた牛乳や、自家製のチーズ等を素材にすることが出来たり、鹿追産の豚肉や牛肉を使った料理や鹿追産のチーズを使った料理などが出来たり、その中でも特に、鹿追産の食材で作られている、色々なメニューが紹介されている。鹿追町では地元の食材を使ったメニューが紹介されている。

私たちが、一年生の冬に鹿追町ワーキングセンターに設置している氷室型貯蔵庫の見学に行った。冬に見学に行ったので、氷は見られなかったが、貯蔵庫の内部を見る「かがやき」話も聞くことができた。氷室型貯蔵庫は、冬に作られた水を貯蔵庫に入れて、シャカイモなどの農作物を貯蔵しておく施設である。氷室に入れたシャカイモは、デンプンがゆっく

りと糖化し、過剰な糖分が増す。また、鮮度の保持に役立つ。氷室に入れてより甘くなったシャカイモを製菓として、販売している。鹿追の水室型貯蔵庫は天然水を使うので、クレーンなどの電気代や、製氷にかかる電気代などのコストがかからず、二酸化炭素の排出を抑える効果があり、また、人体に優しく、農産物の地産地消の地域活性化にもつながることがわかった。(光田)

一年生の冬、私たちは然別湖の上でイグルーを作った。イグルーとは北方民族であるエスキモー・インuit族(イヌイト・ユピック・イヌピット・カラリットなど)の、伝統的な建物のことだ。



みんな完全防備で寒さに耐えて行った。作り方は、雪のブロックで丸い土台の部分を作る。そして、その上「雪のブロック」をシャベットで固めていきながら、積んでいく。とても簡単のように思える作業だが、実際は雪のブロックの重た

さや、寒さでも耐えられた。変形などを防ぐためみんなで声をかけながら、細かいところまで目を配り、頑丈なイグルーができた。

大層だったけど、とても楽しかった。細かい作業が得意なメンバーも多い。私が作ったのは、デザインも良し、飾りも多かったと思う。特に小さい子供達をまき入り口に置いたのは面白いアイデアだった。イグルーは思っている以上の暖かさで、持ち帰れる空間だった。(新田・福田)

切ったら鹿の頭が、(金太郎助) 「ワタシは鹿の頭が、(ワタシは鹿の頭が)」

鹿追町では沢山の美味しい食材が作られている。折角地元で美味しい食材があるから、私たちももっと地元の食材を買ってあげたい。(福田)

この他にも幾つかあり、一人の考えただけで、この案は全部で一九個程出た。

仲間と過ごした青春

私たちのクラス
 2011年4月、慣れない生活に奮闘しながら入学してきて私たちに、クラスの人達は、男子4人、女子6人、計10人と少人数のクラスだった。物静かでおとなしいな印象を持ったクラスだった。そんなクラスも2年がたち、週上級生として学校を引っ張る立場となった。「いつやるの?今でしょ!」テレビでよく聞くような学級目標だが、3年生となった自分たちに求められているものだ。中学校生活も残りわずかとなってしまったが、最後まで動き続けることを忘れず、今を大切にしていきたい。(大久保)

成長を感じた修学旅行

私たちは三泊四日の修学旅行で、明徳・盛岡・仙台に訪れた。事前に自主研修の計画を立て、準備万端で修学旅行に臨んだ。スローガンは『オレ達青春中〜! 成行くん、成助くん、の味〜!』このスローガンにはみんなで協力して助け合い、成長するという意味が込められている。



一日目は函館。全員で五稜郭公園に行き、タワーに登ったり、公園内の道を歩いたりと初めて見る景色を楽しんだ。その後の自主研修はそれぞれが立てた計画通りに行動した。自主研修の終わりに全員で函館山に登った。最初は雨が降っていたが、奇跡的に雨が上がり、夜景を見ることのできた。そのときの夜景はとてきれいで感動した。



一日目は盛岡の中継寺の金色堂に訪れた。ガイドの方に歴史について説明してもらいながら歩き、とても勉強になった。その後、東北自動車道を一路、仙台へ。夜は宮城教育大学院生の方と交流する機会があった。私達は兼道町やシオパークについての発表をし、自分たちで作ったパンフレットをもとに質問に答えるなどをした。後半は大学院生の方から東日本大震災についての話を聞かせてもらった。

三日目は仙台駅から自主研修がスタートした。チェックポイントの仙台城に訪れたり、各自家族へのお土産を買ったりと楽しんでた。自主研修が終わると、仙台駅前で二人一組五グループに分かれて鹿野町についてのアンケート活動、PR活動を行った。最初は人に話しかけることに抵抗があったが、徐々に慣れすぎて、だんだんに声をかけることになった。全員が最後手紙を書き、合わせて四の字のアンケートを集めることとができた。帰りはフェリーに乗って「白鳥」に乗り、フェリーの中では船酔いをしてしまう人もいたが、無事帰ってくることができた。

昨年の七月、二年生だった私達は二泊二日で大崎町と広尾町へキャンプに行った。目標は「旅行費を節約して一生懸命に楽しむ」ということ。準備は自分たちで進め、各自の行動に責任を持ち、キャンプを楽しむ。自分たちの責任を省略して旅行費を節約しようと思った。

一日目は大崎町の工場の見学。工場へ行き、工場の見

昨年のキャンプでの経験

等とチーズの食べ比べをした。その後、近くのスーパーで昼に分かれて食料を買った。広尾町のキャンプ場につくと天候は雨。しかし、料理は焼くことに楽しく協力して、おいしく調理できた。また、学校の学級委員で収穫した「大根」を使った料理も各班で考え出し合い調理した。夕食を食べた後は、全員でハウムクー

を始めた。当日は一人ひとり楽しんで踊ることができた。最後には審査の結果3位になり現金3万円をいただいた。もちろん、これからのクラスの活動に積極的に使おう予定だ。

毎年、私たちの地元広尾町で開かれている「瓜幕夏祭り」。今年はある生徒の呼びかけにより、クラスみんなが参加することになった。夏祭りの北海道に合わせた一週間ほど踊り続ける。さらに、大人も参加する。どの団体も個性がた。

この行事に参加しようと思った一番の理由がある。それは、「今しかない青春を思いっきり楽しみたい」と。それに向かって夏休み中に集まって衣装を考えたりフラカイドを作ったりと着々と準備を進めてきた。

瓜幕夏祭り

備を始めた。当日は一人ひとり楽しんで踊ることができた。最後には審査の結果3位になり現金3万円をいただいた。もちろん、これからのクラスの活動に積極的に使おう予定だ。



学校行事

本校で行ってみたい行事の発表

四年の運動会では、保育園・小学校・中学校の合同で行われている。中学生の競技は、八脚球があり「オーモートル走」は、運動会最初の競技で、競技員から白熱する。「障害を越えて」は、「風」をテーマにした、障害物競走のことで、三つを目標とする。生徒一人を目標とする。

と地域のみなさんが一体となって競技を進めるので、地域の方々も楽しんでもらうものだろう。「風」は、生徒が小さな風を大きく育て、五キロのおもむきで、目的地まで往復して帰ってくる競技だ。唯一、保育園児・小学生・中学生が一様に種目を定める競技である。「リッポウ」

ウエーブ」とは、大講堂での「風中バトル」とは、タイヤを握り合い、競技で、タイヤの大きさに合わせて点数が入れる仕組みがある。知力があり、見事の「」である。「応援合唱」は一番盛り上がる競技で、ダンスやそれぞれの仕掛けが目玉になる。「柳」は、紅と白

の力と力のなつかり合い、協力あふれる競技だ。「」は、運動会の最後の競技で、最も白熱する競技といえるだろう。今年は中学三年生として最後の運動会で、みんなが真剣に取り組んでいて、協力あふれる競技だ。「」は、運動会

な背景に取組んでいて、協力あふれる競技だ。「」は、運動会



自分から行動するっていいよ

「こんにちは。中学生になりました。私、私は中2に入りましたが、楽しい学校生活が待っていると思っています。ですが、心を配っていかないといけないと思います。私、私は中2に入学して、勉強が難しくなってきたり、給食の時間や掃除の時間など、いろいろなことに慣れなくて、精神的にも大変な時期がありました。でも、友達や先生のおかげで乗り越え、今は大丈夫です。」

そんな時、ある友人と出会った。とても優しく、話を聞いてくれた。そして、私にいろいろなアドバイスをくれた。私は、それを受けて、自分から行動するようになった。最初は、友達と遊ぶだけでいいと思っていたが、友人の言葉で、自分から行動するっていいよ、と気づいた。自分から行動すると、周りの空気も変わって、自分も成長できることに気づいた。

自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。

「こんにちは。中学生になりました。私、私は中2に入りましたが、楽しい学校生活が待っていると思っています。ですが、心を配っていかないといけないと思います。私、私は中2に入学して、勉強が難しくなってきたり、給食の時間や掃除の時間など、いろいろなことに慣れなくて、精神的にも大変な時期がありました。でも、友達や先生のおかげで乗り越え、今は大丈夫です。」

自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。

自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ、自分から行動するっていいよ。

皆を引っ張ってあげよう文化祭

毎年10月に文化祭が開催され、今年も一人一人が輝く行事となった。全校合唱では、「火の山の子守歌」、「虹」を合唱した。文化祭後も練習を兼ね、11月10日の十勝子ども大会に参加し、楽しみながら発表できた。全校合唱では、「まぼろし」を演奏した。「リッポウ」の曲で、各パレードにリッポウがあり、皆の力となってくれた。

英語で発表したのは、三年生。英語で発表するのは、三年生。英語で発表するのは、三年生。英語で発表するのは、三年生。英語で発表するのは、三年生。英語で発表するのは、三年生。

文化祭では、20人の生徒がキャストとスタッフに分かれて本番まで練習をした。本番では、一生懸命の演技ができた。生徒会では、実行委員会を中心に企画を行った。二年生は、動画を撮影し、発表の準備ができた。

今年、三年生として最後の文化祭で、様々な面で引っ張ってあげよう。文化祭で学んだことを生かして、残りの学校生活を送ってほしい。(大久保・瑠璃)



瓜中紹介

特色ある教育活動

私たちの瓜中中学校は
 一年生、二年生、三年生、
 一年、二年生、三年生の
 わくわくする学校だ。
 特色ある教育活動の一つ
 として昭和六三年に発足
 した藤沼町瓜中自然体験
 留学制度がある。
 また、平成二四年度か
 ら全国初の四期連続研究
 開発学校として認定され、
 現在特色ある教育として
 「新地球学」「異文化数学」
 「カナダ学」の開発を行
 っている。(沼口)

部活に燃える瓜中生

私たちの学校には、部
 活が四つある。陸上現
 バドミントン部、総合文
 化部、スケート部だ。部
 員数は、陸上部一三人、
 バドミントン部一人、
 総合文化部一人、スケ
 ート部三人である。
 ☆☆☆



バドミントン部は部
 員が一人、部活である。二年
 生の三反藤花太君は、西部

孫崎陸君は、シャペリッ
 クスローで全道三位だっ
 た。女子では、新田綾子
 さんが北海道予選進出を
 した。二年では、大野の
 とかさんが新人全道準決
 勝進出を果たした。



方面で準優勝した。毎日
 他の部活よりも、長く練
 習をして、他校との練習
 試合をして、来夏の夏に
 肉けて日々実践練習を
 重ねている。

今年一月上旬学校の
 生徒玄関にスロープは完
 成した。体の不自由な人
 や車いすに乗る人が利用
 しやすくなりました。工未され
 た。水回し、滑り止め加
 工もされている。今夏の
 工事とどんな人にも使い
 い瓜中中学校になったの
 ではないか。(沼口)

進化したブログ

瓜中中学校にはホームページがありその
 中に公式ブログがある。

このブログは校長先生や教頭先生が、日
 常のことや部活の大会の結果などの情報が
 アップされている。私たちの修学旅行では、
 引率してくれた校長先生がタブレットを使
 ってブログに載せてくれた。そのため保護
 者も旅行中のことが手に取るようにわか
 り、大好評だった。今後も私たちの活躍に
 より多くの人に注目してほしい。(柳川)



スケート部の活動は
 これから本格的にはじ
 まる。毎年全道大会に進



みんな

優しい学校

今年一月上旬学校の
 生徒玄関にスロープは完
 成した。体の不自由な人
 や車いすに乗る人が利用
 しやすくなりました。工未され
 た。水回し、滑り止め加
 工もされている。今夏の
 工事とどんな人にも使い
 い瓜中中学校になったの
 ではないか。(沼口)

編集後記

私たちは三年間で学
 んだことをもとに、この
 新聞を作成した。経験者
 に助けをもらったり、仲
 間に自分の記憶を頼り
 に協力して作成できた。
 三年間学んだことは
 とても多く、聞かれた文
 字数のなかで、これだけ
 伝えられるかと全員で
 考えながら作成した。
 ♡みんなで協力して良いも
 のを作ることができた。(柳
 川) ♡みんなでの学活
 を見ると良い思い出とな
 った。(大友) ♡優しい文
 章はできたばかりですが
 くすぶるために頑張った。(柳
 川) ♡みんなで協力
 できたし楽しかった。(新田
 綾子) ♡今年での思い出を
 思い返しなから作ることが
 できた。(沼口) ♡文章
 を読んでくれるのが楽しかっ
 た。(柳川) ♡今年での
 学活を振り返り、改めて日
 本・世界を知ることができ
 た。(柳川) ♡少し難
 しい場面もあったが、楽し
 く作ることでよかった。(柳
 川) ♡時間が短く、大変だ
 ったが、楽しんで作成する
 ことができたので良かった。
 (新田) ♡みんなでも
 やると結構楽しく終わるな
 と感じた。(柳川)